

いじめ問題をドラマ化

高木監督(唐津市出身)最優秀賞

教育映画祭 中学生の人権作文基に

東京支社

唐津市出身の映画監督、高木裕己さん(64)＝東京都在住＝が製作した「悩まずア

タック!脱・いじめのスパイラル」が、本年度の教育映画祭で最優秀作品賞(中学生部門)に選ばれた。高木監督は「いじめは現代の人権問題であり、これからもシリーズとして取り組んでいきたい」と話している。



最優秀賞作品賞として、文部科学大臣政務官の赤池誠章氏から表彰状を受け取る高木監督(東京・霞ヶ関の東海大学校友会館)

脚本は、「全国中学生人権作文コンテスト」(法務省人権擁護局主催)で法務大臣政務官賞を受賞



いじめをテーマにしたドラマ「悩まずアタック!脱・いじめのスパイラル」の一場面

した山口県の女子中学生の作文がベース。作文を読んだ高木監督が、ドラマ化を企画し、横浜市内の中学校の協力で撮影した。

ドラマは、いじめにあった女子中学生が周囲に告白するきっかけをつかみ、いじめ問題を解決していく姿を描く。その過程では、小さいなきっかけで、いじめられる側といじめる側が入れ替わっていったという事情も明らかになっていく。挿入歌「一人じゃない」は、人気歌手の平井堅さんが提供した。

高木監督は「常に命の問題を中心に企画を考えてきた。いじめ問題は子どもたちが自殺に追い込まれるなど深刻化している。これからも時代の歯車に合った作品を撮っていきたい」と話している。

本年度の教育映画祭(日本視聴覚教育協会主催)には102作品の応募があり、12日に東京・霞ヶ関で表彰式があった。(古賀史生)

▽「悩まずアタック!脱・いじめのスパイラル」のDVDはカラ、1、33分。問い合わせは映学社、電話03(33359)9729へ。